

2012年度

親子のたのしい環境学習

活動報告書

平成24年7月21日(土) ~ 平成25年2月16日(土)

平成25年3月

『親子のたのしい環境学習』の目的と広がりへ
なかはら水と緑の環境ネット代表 青木昌夫

しのびよる地球温暖化の対策に国や行政、産学を含め、さまざまな取り組みが進められています。私たち市民も、身の回りの環境問題に関心を持って日々の生活を送ることが、ささやかでもその動きに貢献できるのではと考えました。

そこで、平成16(2004)年に環境に関心を持つメンバーが集まって、〈なかはら水と緑の環境ネット〉という組織を立ち上げました。都市化された川崎市域にも多摩川や緑地など水や緑にふれあうことができる環境がいくつか残っています。子どもたちにそのような自然に触れることは、とても大切な時間だと思いました。そこで、月1回、年8回ほど戸外を中心に環境学習のプログラムを組んで、小学校高学年を対象にした『たのしい環境学習』を始めました。戸外の体験を通してシリーズで環境問題を学んでいくものです。

その後、小学・低学年まで年齢を下げて、保護者にも加わっていただき、『親子のたのしい環境学習』として幅を広げることになりました。家族が一緒になって、よりいっそう身の回りの環境に意識をもって生活をし、いろいろな環境活動に加わっていただけるのではと判断したからです。参加した子どもたちのなかから、地域の環境問題に関心を持ち、夏休みの自由研究の課題にしましたといううれしい声が聞こえてきました。また、この親と子の協働作業を通して、お互いのよさを発見するキッカケになっていることもうれしいできごとです。

親子の環境学習で啓発された市民が、地域の環境を良くし、住みよい環境に向けた活動の広がりになっていくことが私たちの願いです。



なかはら水と緑の環境ネット

2012年度

親子のたのしい環境学習

活動報告書

1.経過報告

ホームページ更新履歴

2012年06月23日	新フィールドノート閲覧可能になりました。体験学習のご案内よりどうぞ・・・。
2012年07月01日	申込の締め切り日は7月5日(木)です。必着でお願いします!!
2012年07月07日	ご応募の方が定員を超えましたので、抽選をさせて頂きました。当選の方へは本日お知らせなどが 入った書類を発送致しました。
2012年07月09日	当選通知と一緒に同封してありますフィールド・ノートの印刷状態が悪く、わかりづらいところがある と思います、ご面倒でも体験学習のご案内コーナーにpdf書類の見本がありますのでご参考にし てください。(ダウンロードもできます)ごめんなさい・・・。
2012年07月18日	7月21日いよいよ「親子のたのしい環境学習」第一回目の開始です。多摩川の底生動物を採取して 水質との関係を調べましょう。詳細をアップ「活動報告」からどうぞ!! みんな待ってる
2012年07月22日	7月21日「親子のたのしい環境学習」第一回目ぶじに終了しました。まとめや少しだけ、学習風 景の写真など追加してあります。活動報告からどうぞ!!
2012年08月01日	8月4日「親子のたのしい環境学習」第二回目は木の吸収するCO2の調査です。台風9,10号が九 州・沖縄に影響をあたえそうで心配です。オリンピックのテレビ早朝観戦で寝不足にならないよう 注意?しましょう。遅くなっただけ詳細をアップしました。「活動報告」からどうぞ!!
2012年08月05日	8月4日「親子のたのしい環境学習」無事終了致しました。皆様のご協力感謝いたします。活動の写 真をアップしました「活動報告」からどうぞ!!
2012年08月18日	8月17日「タウンニュース中原区版」に8月4日井田山の樹木のCO2調査の記事が掲載されまし た。多摩川の花火大会どうやら開催されそうです。みなさん持ち込んだものはすべて持ち帰りま しょう・・・途中で捨ててこないようお願いいたします。
2012年09月13日	9月15日「多摩川干潟の生物を調べる」予定どおりに開催されます。今年は残暑が厳しく天気予報 も曇り時々晴れ 気温31℃湿度がやや高めとなっております。川原には木陰などありませんので熱 中症対策をお願いします。詳細一部アップいたしました「活動報告」からどうぞ!!
2012年10月16日	10月20日「木の美工作」台風21号がゆっくりと北上する可能性があります、影響はまだわかりま せん警報がでなければ予定どおりに実施します。井田山などの情報が遅くなり木の美採取に役立ち ませんでしたことお詫びいたします。詳細アップいたしました「活動報告」からどうぞ!! 以前の お知らせは「過去のお知らせ」から。
2012年10月21日	10月20日「木の美工作」お疲れさまでした。活動の様や作品をアップしました。作品の写真に は修正を加えておりませんご了承ください。「活動報告」からどうぞ
2012年11月15日	11月17日「多摩川化石発掘」詳細をアップしました。当日の天気は雨の予報ですがいつの時間か ら降り出すかわりませんので当日の予測が現実的なものになってから変更になるかもしれません。 「活動報告」からどうぞ
2012年11月19日	11月17日「多摩川化石発掘」活動の詳細をアップしました。当日の天気は曇り時々雨のなか皆様 の楽しそうな笑顔に救われました。ありがとうございました。それでは「活動報告」からどう
2012年12月10日	12月15日「里山のおちばかき」活動の詳細をアップしました。当日の天気は曇り一時雨の予報で す。雨が本降りになれば中止ですが気温が少し高めなので雪にはならないと思います。それでは 「活動報告」からどうぞ・・・。
2012年12月16日	12月15日「里山のおちばかき」活動の詳細をアップしました。枯葉のプールへジャンプ・ジャン プの写真をせました。(パスワードが必要です。)活動報告からどうぞ・・・。
2013年01月13日	1月19日「等々力緑地の野鳥観察」の詳細をアップしました。寒い日が続いております防寒対策を しっかりとご参加ください。活動報告からどうぞ!!

2、各開催内容のまとめ

第1回 課題

多摩川の生物を調べる

日時

7月21日

講師

小林貞（地球環境科学博士）

開催場所

多摩川等カワカ緑地付近、市民ミュージアム

川幅

25M

生物を採取した場所

川の右岸

採った場所の水深

20cm

流れの速さ

ゆるやか

川底の状態

こぶし大の石、ヌルヌルしている。

水のにごり、におい

きれい、においなし

天気

くもり

温度

21℃

参加家族

30人（うち大人15人）

内容

多摩川の水生生物の種類から水のきれいさとの関係を知る。

観察用具

アミ・バット ルーペ・シャーレ スポイト・ピンセット

観察方法

生きものをとる→種類を調べる→記録する→水質を判定する

下流側にアミを置き、アミの前の石の表面を手でこすったり、川底を足でかきまぜたりして、ながれてくる虫や生きものをアミに受け取ります。また写真のように水と植物の接しているあたりの水の底をアミですくい取る。アミのなかの生きものを、水を少し入れたバットに移します。

生きものをとる→種類を調べる→記録する→水質を判定する

下流側にアミを置き、アミの前の石の表面を手でこすったり、川底を足でかきまぜたりして、ながれてくる虫や生きものをアミに受け取ります。また写真のように水と植物の接しているあたりの水の底をアミですくい取る。アミのなかの生きものを、水を少し入れたバットに移します。

バットのなかの生きものをルーペなどでよく観察して、調べたいものをスポイトやピンセットでつまみシャーレに置いて観察し図鑑などを使って調べます。

【記録】ひろいだした生物の種類や多い少ないその生物のいた場所などをノートに書き込みます。



まとめ

いつもの川遊びとはまた違った経験ができたのではないかと思います。開始直前まで降った雨で流されて何もなくなっているのではないかとヒヤヒヤでしたが、今までの体験学習では見られなかった「ヒラタドロムシ」の幼虫も見れたりして皆様のおかげで雨に降られることもなく無事修了できました。

エルモンヒラタカゲロウ
シロタニガワカゲロウ
コガタシマトビケラ

体調10～15mm、体は著しく平らで、おなかのところに7対のエラみたいなものがあり、しっぽは体調は8mmぐらいで川の流れの中心部の石の下にたくさんいます。しっぽは長く、3本あります。幼虫は、瀬の石のすきまに巣をつくり、アミみたいなものを張り流れてくる藻類や落ち葉のクズなどを食べます。一年中見ることが出来ます。

ヒラタドロムシ幼虫

成虫は水生の甲虫になります。幼虫は円形に近い楕円でうすっぺらく、谷川などの石の裏にへばり付いている。

ヒル シマイシビル
サホコカゲロウ
ミミス

人間の血は吸いませんが、他の生物に吸着して養分を吸い取ります。たぶんこのカゲロウの成虫が一番多くみかけるのではないかと思います。

その他の生物

魚、植物、その他ヨシノボリ（ハゼの仲間）

第2回 課題

樹木の炭酸ガス吸収量を調べる、水の検査

日時

8月4日

講師

吉田恒雄、吉田貞（自然観察指導員・なかはら水と緑の環境ネット）

開催場所

市民健康の森・井田山

天気

晴れ時々曇り

温度

井田山入り口広場 気温34度 丘の上 気温30度

参加家族

24人（うち大人17人）

内容

里山でマイツリーを観察し、太さから炭酸ガス吸収量を探り、環境にいかに関与しているかを知

中原区に唯一存在する里山「井田山」（通称）です。約1haの広さに、コナラ、クヌギなどの落葉樹を中心にかつての雑木林をなるべく自然のまま保てるような状態にして、「市民健康の森を育てる会」の皆様のボランティア活動により保全されております。1年を通じて大変な作業があります。中原区民、みんなの森です、この学習を機にボランティア活動の大切さも一緒に学んでいきましょう！！

観察用具

ルーペ 水質検査薬

観察方法

(1) まず家族ごとグループにわかれます
(2) ともさんの名前（イニシャル）の書いてあるネーム・タグを受付の時に渡しますの
で受け取ってください。「マイツリー・ネームタグ」
(3) 注意事項などを聞いた後、井田山にある木のなかから調べたい木をさがしてください。木の
名前（わかれば種類）や特徴（とくちょう）なども調べて書いておこう。



(4) 決まったら、ネームタグをその木にかけマイツリーにします。わからないことがあったらスタッフに声をかけてください
 (5) 木のみきの太さをはかるひもを渡しますので、ネームタグの付けたマイツリーの地面から1.2メートルぐらいの高さのところの幹(みき)の太さを測ります。
 ひもに目印などをつけて太さを確認し、ブルーシートの所にある「特製計算尺」のところに持って行きCO₂の吸収量を調べる。

【井田山での水質検査】

調査するところやみじかな水もちよって、水の中にとけている物質(ぶっしつ)を物理、化学的な方法で調べます。多摩川・矢上川・江川・大きくは、水温・透視度(とうしど)・pH(ペーハー)・DO・CODを基本として調べます。COD

(1) 調べる水をビーカーに入れます

(2) COD検査キットを使いバックテストを実施。

(3) アルカリ性過マンガン酸カリウムのはいったパックをビーカーにいれ、パックの中に調べる水を吸水します。

約5分ぐらいおいて色が変わりますので、カラーチャートの色に近いものと比較します。

まとめ

第2回目の親子のたのしい環境学習は、「なかはら市民健康の森」井田山での体験学習。樹木の吸収する二酸化炭素量を調べたり、身近な水の水質検査を実施しました。



暑い中、みなさんありがとうございました。NHKの天気予報で東京近郊の7月から8月にかけての平均気温は約29.7℃でした。熱帯地方のフィリピンのマニラの一年で最も暑い5月～6月の平均気温約29.4℃よりも高いとのこと。今このあたりは熱帯地方の気候となっています。そんな中、ヤブ蚊のもう攻撃に耐えながら汗だくだくになりながらも元気に学習を終了できました

名前の札を付けてもらった木は、コナラやクヌギが多かったようです、この木は秋になると「ドングリ」の実を落としてくれます、



10月20日の木の実工作にはマイツリーの木から落ちてくる「ドングリ」をぜひ拾って持ってきてください。どんな形の「ドングリ」かも観察(かんさつ)してくださいね。

みなさんのマイツリーのCO₂の吸収量はおおよそどのくらいでしたか? 以外と細い木でもたくさんCO₂を吸収してくれるのがわかったかな?

後、水の浄化実験で下に降りたときに雑木林の中と同じように蚊の大群がおしよせました

・・・蚊が人を感知するのは、二酸化炭素・熱・水分・においといわれています。

みんなが集まったせいで、人を感知する要因が急に増え蚊が集まってきてしまったのです。

こんなところにもCO₂の影響が感じられました。

昆虫やすずめ蜂が集まる樹液をいっぱい出す木には「アカボシゴマダラ」の蝶も群れていました。

すっかり日本の風土になじんでおり、他の蝶が少なくなっているような気がします。

第3回 課題
日時
講師
開催場所
天気
温度
参加家族

干潟の生物調査と干潟のやくわりを学ぶ

7月21日

佐川麻理子(自然保護協会自然観察指導員)

多摩川河口の干潟干潟館

晴々曇り

気温:31度 水温24度

39人(うち大人18人)

内容

干潟の生物観察と生物が水をきれいにするはたらきを知る

観察用具

くまで、シャベル、ザル、スチロールの皿、双眼鏡。ビニール袋

観察方法

干潟にいる生きもの観察と採取。

1.カニの種類やオス、メスの見分け方

ひっくり返してお腹の所を見てください。フンドシと呼ばれるところがあり、オスはふんどしが三角形ですが、メスは丸く半円を描いています。メスはこのタマゴをかかえます。

2.干潟の役割などを学ぶ 干潟とはどのようなものかを実際に体験。

3.二枚貝の水の浄化実験。



まとめ

多摩川の下流で潮の満ち引きによって、突然とあらわれる砂地、そこに棲む生きものたちが水の汚れをきれいにし、川の上流から運んできたいろいろな栄養分を調整して流し海を豊かにする役割を学び体験。

カニ: ヤマトオサガニ、チゴカニ、ケフサイソガニ、クロベンケイガニ、アシハラガニ

貝: ヤマトシジミ、ソトオリガイ

エビ: テナガエビ

※大師河原干潟館は、多摩川の洪水時などの防災活動や自然環境、地域の歴史・文化などについて、情報発信・環境学習を行う市民活動の拠点の愛称です。この大師河原干潟館は、国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所が管理する大師河原河川防災ステーションの一角にある大師河原水防センターの一部を利用し、



市民グループで構成する運営委員会と川崎市の協働により、管理・運営を行っています。
館内の見学は無料です。一階河川情報室では、洪水等の防災情報の発信、多摩川の河川環境の紹介、河口域の生物水槽展示、地域の歴史や文化に関する展示などを行っています。これらの展示物は、ボランティアスタッフによる解説があります。

第4回 課題 木の実工作で作品づくり里山で採集した木の実などの種類
 日時 10月20日
 講師 町井敏子（木の实工作推進員）井田山
 開催場所 井田山井田病院・会議室
 天気 晴れ 北東の風やや強い
 温度 24℃
 参加家族 26人（うち大人13人）
 内容 里山で採集した木の实などの種類を学び、木の实を使って、そのオブジェやリース、標本などの作品を作ろう
 夏の井田山での樹木の二酸化炭素CO2調査で皆さんがマイツリーのネームタグを付けた場所、「ドングリ広場」主にコナラの木を中心にクヌギやマテバシイまでタグを付けました。 さあ今年もいっぱい実をつけたどんぐりをみつけよう！！

《用意するもの》



《用意した木の实、種》

できれば、自分たちでみつけた木の实など・・・。
 井田山で付けたマイツリーからおちたドングリや枯れ枝などを採ってきてください。
 プログラム

- 1.各自が集めてきた木の实などを使っての工作実習。
- 2.工作に使用する素材を知る。何の木の実？なんの葉？・・・などなど
- 3.いつどこでどのようにして採ったかなどを調べる。
- 4.工作道具の使い方などなど体験！！
 ナイフやキリ、接着剤などなど・・・きっと普段使うことの少ないものをこのさいだから使ってみよう！！
- 5.みんなの前でじぶんのつくった作品を発表。

まとめ



ふうせんかずら、メタセコイヤ、モクマオウ、ムクロジ、ヒマラヤスギ、アオギリ、ブナ、お茶の実、イトスギの実、ナンキンハゼ、ツバキの実、ヒメヤシャブシ、ヒノキ、カボチャの種、ゴーヤの種、シランの種、クラカケマメ、モミジバフウ、マテバシイ、シナノキ、松の実、ヒシ（水草）、クヌギ、コナラ他（形状は当ホームページにてご確認ください。）
 今回の体験学習は「木の实工作」です。学習としては唯一室内でおこなうものです。木の实や枝、ハッパなどを使って楽しい工作をしてもらうことも重要なことですが、それよりも、いかにして工作の材料を普段の生活や自然の中から見つけその材料を使うために持ってくることを主目的としております。
 材料を見つけて出す過程を重要視しており身近な環境のなかで、親子の共通の話題目的を共有する行為の手助けになればと思い企画した講座です。
 講師の「町井先生」はいつもすてきな材料をたくさん用意してくれておりますが、その材料だけを使って作品をつくるのではなく、身近な材料をみんなが用意して足りないものを使ってもらえるようになってくれるとうれしいです。



改装された市営井田病院の会議室をお借りしての第4回親子のたのしい環境学習は町井先生を講師に楽しく開催されました。
 会場が新しくあまり使用されてない状況で汚したり傷つけたりを心配しましたが何事もなくまた使用できると幸いです。井田山の健康の森を守る会長様および関係者の皆様にもこの場をお借りしまして御礼申し上げます。いつも思うことですが、こども達の発想やイメージのふくらませかたなどおとなの観点からはおおよそ想像できないものを作ります。どの作品も素晴らしいものばかりでした。

第5回 課題 化石を発掘して、古い時代の環境を知る
 日時 11月17日
 講師 内野先生
 開催場所 和泉多摩川河川敷、午後：宙と緑の科学館での学習
 生物を採取した場所 多摩川河川敷和泉自動車練習場付近
 川底の状態 乾いた粘土層。ヌルヌルしている粘土層。
 水のにごり、におい きれい、においなし
 天気 くもりのち雨
 温度 16℃
 参加家族 28人（うち大人15人）
 内容 河川敷で化石を発掘し、古い時代の地層から環境を考える
 観察用具 化石を掘るためのタガネ（または太目のくぎ）、ハンマー、軍手、ビニール袋、新聞紙等持参

観察方法



飯室層（いいむろそう）約140万年～120万年前頃当時は海底だったところにたまってできた地層で多くの貝化石が発掘されることで有名。この飯室層が多摩川河床に露出しているところが東京狛江市和泉多摩川付近の多摩川の宿河原堰付近の河川床にあります。2007年の台風9号の影響で宿河原堰が壊れその後の護岸工事とうの影響で中洲のように露出していたところがかなり埋まってしまい簡単に採取することができなくなりましたが古代ロマンを体験できる場所であることに変わりはありません。



飯室層は、今からおよそ百万年前の地層で当時は海の中、（生田緑地の枳形山（ますがたやま）に見られる飯室層が多摩川左岸宿河原堰（しゅくがわらせき）下流で露出しています。）堆積した層の中から、海に生息する哺乳動物や貝の化石が多く産出しているのが特徴です。当時は比較的浅い海だったようで、木片や貝の化石が多く産出されますが、何年前かに海獣の大腿骨の化石が発見され学術的にも貴重な場所となっております。

皆さんは、化石という石の中から出てくるものと思いがちですが、この飯室層は海の中に堆積した層、もともとは砂が押し固められたものですので予想外にもろく、すぐ崩れてしましますので、化石を見つけてそれを取り出そうとしても壊れやすいので、まわりの土ごとつるはしのようなもので掘りおこします。そのかたまりの中から化石を見つけてください。白く見えるところが化石なのですが、空気にふれると、酸化されてしまい赤ちゃけた色になってしまいます。

取り出した化石は木工用の透明な糊（木工用ボンドを薄めて使用）をぬっておくと、風化をさげられます。

【採取した化石】

オオツカユキノアシタ、ツキガイモドキ、オオスダレガイ、マルヒナガイ

第6回 課題
日時
講師
開催場所
天気
温度
参加家族

里山で植物循環、落ち葉かき体験と里山を守る方々と交流会
12月15日
市民健康の森を守る会スタッフおよび竹井斎（なかはら水と緑の環境ネット）
市民健康の森・井田山
曇りのち雨 南の風
14℃
24人（うち大人12人）

内容

井田山のピオトープと落ち葉の循環を学ぶ。落ち葉かき体験をする。市民健康の森を守る団体と当日「健康の森を育てる会」との交流会は中止となりました

当日のスケジュール

集合 受付したらドングリ広場へ上がってマイネームタグを外しましょう。→ネームタグは記念に持って帰る→下に降りる→9:30から「里山を守る会」が主催する落ち葉かきの注意事項を聞く→ラジオ体操 道具を持って上へ 落ち葉をかき集めブルーシートへ

まとめ



8月4日にみなさんが井田山にある木にネーム・タグを付けマイツリーが一年間にどのくらいのCO2を吸収するかを調べました。

さて、冬になりそのマイツリーはどのようになっているか今度は調べてみましょう。みなさんが付けたネーム・タグは『クヌギ』『コナラ』などの落葉樹が多く、秋から冬になると葉が枯れて落ちてしまいます。（これを落葉「ラクヨウ」といいます）皆さんはコナラの木に多くのネームタグが付けてありました。

昔はこの落ち葉を堆肥（たいひ）として利用するために落ち葉かきをしましたが、今は落ち葉の下にうもれているいろいろな種の発芽をさせるため雑木林を明るくするためにおこなわれています。この井田山では基本的に『おちばかき』はしないということが決められているようです、みなさんが観察した『どんぐり広場』はある意味で、公共的な役割もあり、みんながこの広場を気持ちよく使えるようにきれいにすることが目的です。

また、これらの樹木は、秋に毎年大量の「木の実」を付け熟すと落ちます。その実は堅果（けんか）といい、果実はかたく乾燥し、熟しても割れにくく、果皮は木質で種子から離れやすい特徴があります。

みなさんがよく手にするドングリはそれらの木の実の総称（そうしょう）です。ただし、同じ仲間の『クリ』だけはドングリとはいいません。

今年は夏の猛暑（もうしょ）の影響が井田山のドングリは異常に少なかったようですが、落ち葉の下からさっと見つかると思います。

落ち葉かきに使う道具は「クマデ」というものが中心です。もちろん体験学習ですから、参加者には使用してもらいますがとりあつかいには注意してください。さあ、みなさんが集めた落ち葉にもう一働きさせましょう。山の斜面に集めてきた落ち葉をどンドン落としてゆきましょう。

「井田山を守る会」のおじさん達が元気よく指示をしてくれました。大きなブルーシートにのせて山の斜面まで運びますがあまり多くのせてしまうと重くて運びのが大お待ちかね！！落ち葉のプールへジャンプ！！

さあ、ふかふかの落ち葉が積みあげられました。さくの上のって、おもいっきりジャーンプして飛びこみましょう。最初は落ち葉がふわふわの状態です。頭までうまってしまってもいいかもしれませんが、スタッフ達がまわりにおりますのでだいじょうぶです！！



第7回 課題 野鳥観察と環境の関係を知る
 日時 11月17日
 講師 石井一与（日本野鳥の会会員）
 開催場所 等々力緑地市民ミュージアム
 天気 晴 無風
 温度 10℃
 参加家族 32人（うち大人16人）

内容 等々力緑地と池の回りに飛来する野鳥を観察し、地域環境とのかかわりを学ぶ。

観察用具

双眼鏡
 倍率の高いものは高額で重く、長い間首などにかけておくと体に負担をかけるので、他の時にも利用できる倍率8倍前後で対物レンズ20～30mmぐらいのコンパクトサイズがおすすめです。
 首からかけるストラップ（ひも）がついてますので、手にしたらすぐにかけてください。長さは自分の胸のあたりが目安、他の作業をする時にもじゃまになりません。

観察方法

- ◎静かに観察する
- ◎鳥を追いまわさない！！
- ◎立入禁止区域には絶対に入らない！！
- ◎エサを与えない、野鳥を見たいがために餌付け的な行為をしない。
- ◎持ち込んだものは必ず回収する。
- ◎双眼鏡を見たまま移動しない！！
- ◎先生や指導者の言うことを必ず守ることと先だって歩かない。

まとめ



等々力緑地では、私たちの街に暮らす身近な鳥や多摩川の河川や水辺に暮らす野鳥、郊外の鳥、季節の渡り鳥などなど、いろいろな野鳥の生息を観察することができます。かつての等々力緑地は街の近くのバード・ウォッチングとしては有名な場所、野鳥の宝庫として知られておりました。しかし、中核をなす等々力公園は人が利用する利便さを優先する公園として、改修されつつあり、以前のようにはいなくなっております。現在の釣り池の中にある小島はかつて「サギ」のコロニー（※生態学的に繁殖のための群れが集まる場所）となっておりましたが、いろいろな悪条件がかさなり、数年前からは「サギ」の姿は見えなくなってしまい現在はコロニーとしての役目を終えてしまいました。住宅地の中にこのような場所があるということで貴重な場所として知られていましたが残念です。今年から本格的に工事が始まる、競技場の改修工事や人が利用しやすい公園をめざしいろいろな人工的な処理をほどこされますので、今までの野鳥の暮らす環境とはことなる要素が強まり、ここではもう見られなくなる鳥たちも出てくると思いますが絶滅するわけではないのでそれはそれとして見守ってゆきたいとおもいます。

今は冬の厳しい時、多摩川の河川の鳥たちはエサが少なくなってきてさかんに緑地や民家の庭先にまでエサを求めて飛来しておりいろいろな野鳥に出会う最後のチャンスかもしれません。この体験を機会に鳥の鳴き声や姿からその鳥が何かをわかるようになったら自慢できるかもしれません！！スズメも立派な野鳥ですがその他の鳥の固有名を覚えたり習性（その鳥のもっている特徴）を知っておくとこれからの身近な環境の変化にも気付くことができるかもしれません。

特徴

名前	特徴	確認
1 スズメ	都会のちいさなギャング 意外と気が強い！！	○
2 ノスリ	カラスと一緒にいることも多いタカ科の鳥	○
3 ハシブトカラス	都会のカラス	○
4 ハシボソカラス	田舎のカラス	○
5 オナガ	カラスの仲間	○
6 モズ	モズのハヤニエ	○
7 ヒヨドリ	街の騒音屋	○
8 ムクドリ	集団で行動	○
9 シジュウカラ	どこにいるのかわからない・・・	○
10 メジロ	一般には鳥獣保護法により捕獲禁止となっており、飼育も禁じられている。	○
11 ツグミ	渡り鳥	○
12 カワラヒワ	スズメではない	×
13 ハクセキレイ	道先案内鳥のよう	○
14 ウグイス	春告げ鳥	×
15 キジバト	デェデェ、ポーポ	○
16 コサギ	等々力コロニー	×
17 カワウ	羽をかわかす水鳥	×
18 カルガモ	都会の真ん中でも生息する	○
19 アイガモ	野生のマガモとカルガモの雑種？	○
20 カイツブリ	一生水面で暮らす鳥	○
21 オカヨシガモ	冬に来る渡り鳥	○
22 キンクロハジロ	冬にくる渡り鳥	○
23 カワセミ	多摩川の人気者	○
24 コゲラ	コゲラの姿初めて見た！！	○
25 コアジサシ	夏鳥	×
26 ユリカモメ	冬鳥として飛来。	○

第8回 課題
日時
講師
開催場所
天気
温度
参加家族

「親子のたのしい環境学習」・・・くらしと自然のまとめ
2月16日
竹井斎（NPO法人アクト川崎、なかはら水と緑の環境ネット）
等々力緑地市民ミュージアム
晴 無風
6℃
13人（うち大人7人）

内容

スライドで学習活動の様子を見る。ワークショップでまとめ、今後に活かす。
子どもは印象に残ったことを絵や文章で表現する。



親子のたのしい環境学習」最終回です。
第1回から第7回までの学習のまとめとこれからの環境問題にたいする取組や意識改革などいろいろな意見や考え方など親子や子どもさん達で話し合っまとめます。
最後に修了書を出席した子どもさんにお渡し致します。（欠席されたお子さまにも後日他の報告書と一緒に郵送させていただきます。）なお当日は、木の実工作の写真なども展示しますので帰る時にお持ち帰りください。
作品写真はどなたが作成されたかわかりませんので残ったものは今後のいろいろな催しがありますのでそちらで使用させていただきますのでご了承ください。

2月16日（土）「親子のたのしい環境学習」最終回のまとめをもちましてすべて終了致しました。子どもさん達に無事修了書をお渡しできたことや最終回まで各講座に積極的にご参加いただいた皆様の熱意に対しまして、心より感謝いたします。

「まとめ」にて頂戴いたしました皆様からの貴重な意見・要望など極力今後の「親子のたのしい環境学習」に活かしていくつもりであります。

また、この場をお借りいたしまして、「親子のたのしい環境学習」の講師を快く引き受けていただきました各講座の先生達やサポートをして頂いた関係者の方々にスタッフ一同、心より感謝するしだいでございます。

尚、最終回に欠席されたご家族の皆様にも、後日、報告書や修了書と一緒にアンケートを同封させていただきますのでご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

最後に、体験活動中の運営上の不手際やご不満など多々あったと思いますが事故も起こらずに無事終了できたということでお許しただけでしたら幸いです。

皆様のさらなるご活躍とご健勝をお祈りして終わりたいと思います。ありがとうございました

アンケート結果

ホームページ・後援団体の告知については、認知度を上げる余地があると思われました。
開催時間に関しては、干潟観察・化石発掘の午後開催の要望が多かったです。
概ね安全管理に関しての意見はありませんでした。
又、楽しかったという意見も多く頂き”講座名義”冥利で主催者として、うれしい限りです。

【親子のたのしい環境学習について】

- 保護者（出席者）からは、概ね好評だった学習講座であったようです。
- ・いろいろな環境学習が体験できて、心に残り良かった。
- ・中身の濃い学習プログラム、親子参加の形も素晴らしく、きっと応募も多かったと思うが、当選したことが嬉しくて幸運でした。
- ・化石発掘だけ出席のつもりが他の体験にもはまりラッキーでした。
- ・汚染の程度が良くなったといわれるが、悪かった時のことを実感として持っていないので比較ができません

『多摩川の生きものを採取して水の環境調査』

- ・多摩川に個人ではなかなか入れない。いい場所を教えてくれた。
- ・今後も多摩川の生きもの観察を続け子どもと遊びたい。
- ・生物採取調査は初めての体験で、めずらしい「ヒラタドロムシ」が採れて、先生に珍しいことですよと言われ、感激した。
- ・多くの生きものが（昆虫他）予想外に採れたこと。

『井田山でのマイツリー』

- ・井田山でのたくさんの樹木の中、親子で最初は別々の木を探しましたが最終的には一本の木を家族が気に入ってマイツリーに選んだ。

『干潟での生きもの調査』

- ・干潟の泥んこ遊び、貴重な体験をさせてもらった。採った「シジミ」もおいしかった。
- ・泥の中に入り、カニ、シジミを採った。生暖かい泥に親子ではしゃぎました。
- ・干潟で採った「クロベンケイガニ」を飼っています。・・・すごい！！

『木の実細工』

- ・あんなにたくさんの木の实を見たのに感激、楽しかった。

『化石発掘』

- ・想像もできないぐらいの昔の化石の発掘にロマンを感じた。
- ・川崎市内で古代の化石が発掘できる場があることに驚き。
- ・ほんとうに化石が採れてよかった。（最初は採れないと思っていたようです）
- ・化石発掘を楽しみにしていた子どもと後日再度化石発掘に行った
(いい形の化石が採れたようだ)

『里山の落ち葉かき』

- ・落ち葉かきとジャンプ、時間を忘れるくらい夢中でしてしまった。
- ・集めた落ち葉に飛び込むことが楽しかった。
- ・落ち葉は腐葉土の役目しかないと思っていたがこのような遊び方があるのがうれしかった。
- ・落ち葉へのジャンプで子どもだけでなく、大人も体験できたことの喜び。

『野鳥観察』

- ・今までは気にもしていない鳥の鳴き声や姿がこのような体験をしたことで気になるようになった。
 - ・この後、双眼鏡を購入しては野鳥観察にはまってしまった。
 - ・鳥が思ったより多くいた、先生が一目で見分けることがすごい。
 - ・鳥に興味がなかったが、以後注意してみるようになった。
 - ・初めて「コゲラ」が木を突つつく姿を見て幸せでした。
- 穴はしょっちゅう見ているけれど、あんな人が多いところで見ることができたラッキーでしたし参加者の日頃のおこないが良いと確信しました。（スタッフより）

【今後に期待すること】

《大人の環境学習》・・・生ゴミ

- ・集合住宅で生ゴミをディスポーザー処理しているが水の汚染にならないか心配。
- ・生ゴミコンポストを町内やいろいろな所に設置し処理したものを町の緑化に役立たないか？

《水・用水》

- ・水と言えば、やっぱり水源・・・蛍の生息見学もしてみたら。
- ・二ヶ領用水の話やことなども取り上げてほしい。

《海浜や他の地域》

- ・川崎といえば工場（業）団地？海の近くの施設を知りたい。
- ・工場見学・・・東京ガス、東電、ゴミ処理場
- ・川崎の入江付近のことを知りたい

《生きものなど》

- ・生きもの名前を覚える。
- ・外来種の問題
- ・生田緑地の昆虫や生きものの観察・・・生態。
- ・樹木の名前や特徴を知りたい。

《その他》

- ・鉱物採集
- ・昼食をはさんでの講習も2～3回あればよかった。
- ・参加費の有料化をし、もう少し高度な講座を受けたい。
- ・天気の影響を受けるので、振替日があったら良い。
- ・時間的な余裕があれば体験後の講習時間をもう少し欲しい。

《スタッフなど》

- ・毎年同じ場所でやっているなら、前回との環境の違いなどをまとめておきたい。
- ・今後のまとめの課題としてだが、最期のまとめで親子別々にするのではなく、ご家族皆さんで、共通の何かに取り組んでゆくことを発表してもらったりすることもあっていいかなとスタッフとして

※この活動報告書は平成24年度「子どもゆめ基金助成活動」の助成金にて作成しました。